

第6図 オケヤン70 作動状況模式図

- iv 算出された団塊濃集状況は st 143--26kg/m²を最高とし 10kg/m²以上の地点として st 121 126 129 132の4地点 5kg/m²以上の地点とした st 124 144等があった。

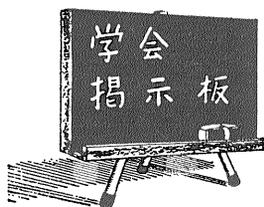
等となり 団塊の粒径 内部構造 濃集地における団塊形態 団塊濃集と底質の関連性などとともに深海底表面部堆積物についても 多くの事項を知ることができた。

以上の経過から 今回試作したグラブ型採泥器オケヤン70は トリガー(起動装置)あるいは採取試料の一部におこる崩れ等 1~2の問題を含みながらも 深海

底から堆積物試料を適確に採取できることがわかり その試料は深海域の地質調査あるいは資源調査に十分に役立つ見通しを得た。なお トリガーについては 天秤式トリガーの使用あるいは改良型ホックの試作案があり 採取試料の一部の崩れについても対策は考えられているので 今後さらに使い良いものとなる予定である。

む す び

以上 深海域のマンガン団塊に関する資料と深海調査用グラブ型採泥器「オケヤン70」について それぞれ概要を紹介した。いずれにしても 水深5,000m内外の深海底は 広くわからないことが多く 調査のための設備・機器も十分でない。このため 今後深海域の調査を行なう際には常に目的と環境・設備等に適合した機器を準備し 安全適確に調査を進めることが必要である。また今後実施される資源的調査では 先ず第一に目的地域の地形規模・特長と地質資源概況等の把握につとめ次に 得られた有望予想地区に詳細な調査検討を行なうべきであり 目的に適応した調査法・効率的な運用法等についても十分に検討されなければならない。最後に深海域は未知の世界であり 偉大である。これに臨むわれわれは 常に謙虚な気持で取組まなければならないことを付記して本稿を終る。(筆者らは 海洋地質部)



・日本鉱物学会

1. 昭和50年6月10日(火)~12日(木) 13日(金) 巡検
2. 日本鉱物学会昭和50年度年会
3. 国立科学博物館(東京都台東区上野公園 ㊚ 110)
4. 日本鉱物学会

5. 福岡市東区箱崎 九州大学理学部地質学教室 広渡文利 ㊚ 812 電話(092)641-1101

・理工学における同位元素研究発表会

1. 昭和50年6月18日(水)~20日(金)
2. 第12回理工学における同位元素研究発表会(発表申込締切 2月28日)
3. 機械振興会館(東京・芝公園3-5-8)
4. 東京都文京区本駒込2-28-45 日本アイソトープ協会内 理工学における同位元素研究発表会運営委員会 ㊚ 113 電話(03)946-7111(代)

・地学団体研究会

1. 昭和50年8月1日(金)~3日(日)
2. 地学団体研究会第29総会
3. 群馬大学教養部

4. 前橋市 群馬大学教養部内地団研前橋支部総会準備委員会 ㊚ 371 電話(0272)32-1611

・日本岩石鉱物特殊技術研究会

1. 昭和50年8月6日(水)~8日(金)
2. 第18回研究発表会 金属 非金属 構造地質 耐火物等の薄片 研磨片の作成に関する講演会
3. 北海道大学工学部資源開発工学科応用地質学教室
4. 日本岩石鉱物特殊技術研究会
5. 川崎市高津区久本135 地質調査所内 電話(044)866-3171(代)

・東南アジア地域地質・鉱物資源会議

1. 昭和50年8月4日(月)~8月7日(木)
2. Regional Conference on the Geology and Mineral Resources of South East Asia
3. ジャカルタ インドネシア
4. インドネシア地質学会 The Association of Indonesian Geologists (Jakarta Chapter of Ikatan Ahli Geologi Indonesia)
5. G. A. S. Nayoan The Secretary General Regional Conference on the Geology and Mineral Resources of South East Asia Jalan Sinabung III/4, Jakarta Selatan Indonesia

[注] 1. 開催年月 2. 会合名 3. 会場 4. 主催者 5. 連絡先(掲載順位は原稿到着順)